

四国線調査報告
 一、調査の経緯
 二、調査の目的
 三、調査の範囲
 四、調査の方法
 五、調査の結果
 六、調査の結論
 七、調査の附録
 八、調査の参考文献
 九、調査の謝辞
 十、調査の発行
 十一、調査の印刷
 十二、調査の発行所
 十三、調査の発行年
 十四、調査の発行部数
 十五、調査の発行価格
 十六、調査の発行日
 十七、調査の発行地
 十八、調査の発行者
 十九、調査の発行責任者
 二十、調査の発行連絡先

四国線調査報告

四国線の内左記各線路の調査、線路調査掛技師
 大屋権平其主任トナリ明治廿六年十月二十日實地
 調査ニ着手翌廿七年三月末日ニ至ルニ三月余ヲ
 以テ了セリ其調査セル線路ハ左ノ如シ

- 琴平ヨリ高知ヲ経テ湊等ニ至ル線路
- 前項ノ線路中著威ヨリ分岐シテ徳島ニ至ル線路
- 丸亀ヨリ徳島ニ至ル線路

琴平ヨリ高知ヲ経テ湊等ニ至ル線路
 本線路ハ讃岐鉄道會社線路多度津起點
 七哩二十鎮ニ至リ琴平所ノ中央ヲ横断シ樺ノ

【資料名】 四国線調査報告

【年代】 明治二七年（一八九四）五月

【作成】 線路調査掛長 原口技師↓松本局長

【解説】

明治二十五年に公布された鉄道敷設法における構想では、四国は①琴平より高知經由、須崎間、②徳島より①へ接続、③多度津より今治經由、松山間、の三路線であった。本資料はこの三つの内、①②に加えて丸亀徳島間について鉄道省の技師が調査し作成した報告書である。

調査は各路線の距離や勾配、必要な隧道(トンネル)の数のほか、そのうえで
の工費及び経済性など多岐にわたり、路線ごとに複数の案を掲げている。調査
報告には線路図なども添付されており、当時の詳細な調査がうかがえる。

四国内の鉄道については土讃線、高德線の全通が昭和十年(一九三五)となる
など、四十年もの歳月を待たねばならなかったが、この報告の内容については
後の土讃線などに類似する点も多く、影響を持ったものと思われる。

近代の四国における鉄道政策の一端を表す資料である。